

国際ナショナルフィールドスタディ報告会を開催しました

本学大学院国際地域看護学専門分野博士前期課程1年生の久嶋美和さんと李猛さんは、夏休み期間中の9月19～26日の1週間において、中国の山東省の農村地域に見学実習に行ってきました。実習の一環として、本日「国際ナショナルフィールドスタディ報告会」が開催されました。

学生さんは、日本とは生活様式や文化の多様性などから生じた健康問題や看護の在り方の違いを理解するために、中国の農村地域の市病院・社区保健センター・村衛生室等の農村における医療看護のプライマリヘルスケアの現状を見学し、実体験していました。期間中、中国伝統的なあん摩術、吸い玉術、薬浴、つぼ、灸法、気功といった看護技術を実感し、地域住民にとって適用範囲が広く、道具がシンプルで操作が簡単であり、コストが低く、侵襲が少なく、患者が受け入れやすい等の利点がある等、大変興味深く、教科書には学べないことを発表していました。

最後に、学生さんは「実習の一週間において、現地の人々から私たちの実習先を提供していただき、生活や実習をサポートしていただいたことを心より感謝致します」と述べ、40分間の実習報告が終了されました。

参加者は少人数ではありましたが、教職員、大学院生、学部生の方々が弁当を持って集まり、熱心に発表に聴き入り、発表後の質疑応答も活発に行いました。参加者の皆さまにも感謝いたします。ご臨席をどうもありがとうございました。





中医学看護技術

- 鍼法と吸い玉術のデモンストレーション
- 鍼法では、経絡に沿って皮膚表面を軽く触れ、ツボに触れ鍼を刺す。
- 吸い玉も、吸い玉の中を軽く火で炙り陰圧し、皮膚に装着する。
- 道具がシンプルで、操作が簡単、コストも低く済む。
- より専門的な中医学の知識は要求される。





